

## 第52回運営小委員会 議事録

1. 開催日時：令和5年10月26日（木） 9:30～13:00
2. 開催場所：Webexによるオンライン開催
3. 出席者：河村・藤原（電中研）、長瀬（日立GE）、杉野（日本原電）、高木・山本・柴崎（東芝ESS）、伊藤（日立）、平（東京電力HD）、渡邊・阿部（東北大学）、大橋（オルガノ）、久宗（WANO）、荘田・前田（三菱重工）、室屋（大阪大）、山下（東京大）、端（JAEA）【敬称略、順不同】

### 4. 議事

#### (1) 前回議事録確認

委員交代について、規約に従い「後任」ではなく「代行者」とする。

#### (2) 今後の定例研究会について

山本委員（企画運営WG担当）より、資料に基づき第47回定例研究会のテーマ案について説明がなされた。次回開催時期は3月とし、「ラジオリシス影響下の材料腐食・防食」のテーマで東北大、JAEA等の取り組みを紹介することが決定した。次々回に向けては、高経年化対策・検査や、PWRのSCCを中心に企画運営WGで検討することとなった。開催方法については、会場の確保が困難であることを考えて、オンラインを念頭に企画運営WGで検討することとなった。全体会議と部会賞授賞式を春の年会中に実施し、受賞者記念講演を別途オンラインで開催する案も検討された。

#### (3) 2024年春の年会の企画セッションについて

山本委員（企画運営WG担当）より、2024年春の年会では「ATFと水化学」をテーマに核燃料部会との合同セッションを開催することで調整が進んでいる旨の説明があった。核燃料部会から3種類の材料について各1件、水化学部会からは水化学的視点で注意すべきことについて1件発表する方向で核燃料部会と調整することになった。水化学部会の講演は長瀬副部長にて検討し、連絡窓口は山本委員にて継続することとなった。

#### (4) 2023年度部会報について

藤原委員（広報担当）より、資料に基づき水化学部会報（第15号）の内容案について説明がなされた。前回の審議事項に加え、サマーセミナー報告を長

瀬副部長に依頼することとした。また、FP 研究専門委員会の活動報告を高木顧問にて検討することになった。藤原委員から順次執筆を依頼する。

新任委員の挨拶に代行者を含めるかどうかについては引き続き検討することとした。

#### (5) NPC2023 参加報告について

阿部委員より、水化学国際会議（NPC2023）の報告書のとりまとめ状況の説明及び参加報告があった。本会議ではアプリの活用があり有用であった等の報告がなされた。会議の所感についても報告書に盛り込むこととした。

#### (6) 若手検討チームの状況報告

端委員より、部会の活性化に向けた若手検討チームの活動状況に関する報告があった。提言書案が固まり次第運営小委員会に共有し、その後部会報に掲載することで決定した。今後の継続については状況を見て判断する。

#### (7) 2023 年第 8 回水化学サマーセミナー実施報告

長瀬副部長（サマーセミナーWG 担当）より、資料に基づいて第 8 回水化学サマーセミナーの報告書及びアンケート結果について報告があった。報告書は部会ホームページに掲載し、部会報にはリンクを貼る形で公開する。

#### (8) サマーセミナーのパネルディスカッションでの若手の意見への対応について

長瀬副部長（サマーセミナーWG 担当）より、サマーセミナーのパネルディスカッションにおいて若手から提案された意見への対応方針について、資料に基づき説明があった。水化学の概要や参考文献のホームページへの掲載、相談フォームの作成について議論した。

相談フォームについては、「運営小委員会メンバー」＋「部会 OB の賛同いただける方」で対応する方向とし、詳細な仕組みを引き続き検討することになった。

参考文献リストについては、原子炉水化学ハンドブックの基礎編第 1 章と第 2 章の文献および水化学管理指針を掲載し、それ以降は要望があり次第更新を検討することとした。有料の文献に対しては、購入先の情報を迎れるようにする。

#### (8) 2024 年三部会合同夏期セミナー（材料部会主催）について

山本委員（企画担当）より、2024年度三部会合同夏期セミナーについて説明がなされた。開催日時は8/5-7、開催場所は福岡（博多駅周辺の貸会議室）の予定。また、玄海原子力発電所見学を実施する方向で調整中との報告があった。

(9) 部会賞の選考委員の選任について

端委員（庶務担当）より、過去の委員の公開方法、新選考委員の選考方法、及びそれらに係る細則の修正について、資料に基づき説明があった。

過去の委員の公開方法及び細則の修正案については異論なく承認された。  
新選考委員の選任は、部会長名でメールにて行うこととした。

(10) 運営小委員会細則の改訂について

端委員（庶務担当）より、水化学部会運営小委員会細則の改定案について説明があった。会議成立条件については全委員の2/3以上の出席を必要とすること、承認の条件については全委員の2/3以上の賛成を必要とすること、メール審議を可能とする旨を条文に明記することが承認され。部会賞細則の修正と合わせて、3月の全体会合で承認を得る。

(11) 「1F 廃炉に係る核分裂生成物挙動」研究専門委員会活動報告

高木顧問より、資料に基づき「1F 廃炉に係る核分裂生成物挙動」研究専門委員会の活動状況について説明があり、二期目の活動状況について報告がなされた。

(12) 部会全体会議実施記録の掲載等について

藤原委員（広報担当）より過去の全体会議の実施記録のホームページへの掲載について報告があった。今後の国際会議開催案内等についても順次掲載していく予定である。アジア水化学国際会議AWCについては、インドがオンライン開催の方向で実施することが決まってから連絡がないため、渡邊委員から近況を確認することとなった。

(13) 部会等運営委員会からの連絡

端委員より、第1回部会等運営連絡会における議論について報告があった。事務局が作成する正式な議事録を後日運営小委員会内に共有することとした。

(15) NPC コアメンバー会議報告

河村部会長より、NPC コアメンバー会議において日本が引き続きコアメンバーとして参画することが認められたことの報告があった。また、2029年度（これまでの順番では欧州開催）に日本開催の打診があったことの報告もあった。引き受ける方向で検討し、2025年度の会議までに開催地等を紹介できるように準備を進めることとなった。

(16) 水化学への原子力安全の考え方の取り込みについて

標準委員会の取組みを NPC2023 に報告するにあたり、東大・関村教授から指摘があり、関村教授を訪問して説明した件について、河村部会長から説明があった。関村教授からは、水化学関係者にもっと安全文化を根付かせるマインドを持ってもらうよう檄があったこと、定例研究会・国際会議等で原子力安全を取り上げることの提案があったこと等が報告された。これらの提案をどのように部会の活動に取り入れていくかについて継続的に検討を進めることとした。

その他

今回十分な審議をできなかった案件について議論するため、12/18に臨時運営小委員会を開催する方向で調整する。

以 上